

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	情報化やグローバル化が進展し、人々が今まで経験をしたことのない社会を生き抜く資質・能力を育成するために、自ら考える力や自ら判断する力を身に付けるとともに、それらを活用する能力の向上を図る。	①基本的・基礎的な知識・技能を身に付け、主体的・対話的な深い学びを通して、自ら考える力や自ら判断する力を身に付け、活用・発信する能力の向上を図る。	①生徒が主体となり考えを深める課題を設定する。表現力やコミュニケーション能力の育成を目指したプレゼンテーションや発表を通して自らの考えを発信する。	①主体的な学びを実現し、表現力やコミュニケーション能力の向上が見られたか。生徒の発表活動を取り入れることができたか。	①各教科や総合的な探究の時間において、生徒が主体的に活動し、課題の取組等、考えを深めるような学習活動が行われ、表現力やコミュニケーション能力の向上が見られた。	①生徒による授業評価の結果を踏まえながら、引き続き生徒が主体となって考え、表現、コミュニケーションする活動を取り入れていく。	iPadを導入し使いやすさなどの点で良い。 伊志田の各教科のスタンダードな目標を示す必要がある。ある程度負荷をかけて、考えさせることが必要でありそのために何をさせるか考える必要がある。 柔軟な学びについては、学校に登校する意味を考える必要があるのではないか。	生徒が主体的に活動し、課題の取組等、考えを深めるような学習活動が行われた。引き続き生徒が主体となって考え、表現、コミュニケーションする活動を取り入れていく。 柔軟な学びについては、学校での実施基準を設ける必要がある。	公開研究授業、指導と評価の計画の基準作成、生徒による授業評価等を活用し、授業改善を継続して行う。教務基準や教育課程の見直しも含めて検討する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	生徒一人ひとりの個性、学校や家庭、地域で生徒を取り巻く環境を踏まえたきめ細かな生徒指導・支援を行う。	①生徒会行事や部活動を通じて生徒の主体性・積極性を育成するとともに、生徒の生活習慣の確立や規範意識の向上を支援する指導を行い、安心・安全な環境の整備に取り組む。	①行事や部活動の中で、積極的に声をかけ、主体的・積極的な取り組みの手助けを行う。また、行事以外でも相談窓口の設置やアンケート実施を通して、生徒の困り感の早期発見に努める。	①行事や部活動の成果が生徒主体で出来ているか。相談窓口やアンケートを通して、生徒の困り感の早期発見に努めているか。	①かながわ子どもサポートドックの年2回実施と面談週間の設定をし、生徒に関わる機会を確保した。 生徒主体の行事運営を推進し、フードドライブ事業など新規の生徒会主催の行事が実施された。行事ごとにアンケートを実施し、生徒の主体性向上と課題の早期発見に努めた。	①生徒会行事や部活動については、引き続き、生徒の主体性・積極性を育むとともに、より円滑な運営を目指す観点から、文化祭においてキャッシュレス決済の導入等について研究・試行する必要がある。	キャッシュレス決裁は、大いに賛成である。多くの学校が入れているので、進めたい。媒体については考える必要がある。初年度の試みにより、今後検討すればよい。 結団式や IFT の取組は非常に良い。 フードドライブの取組も非常に良い。生徒からの働きかけで継続し伝統になると良い。	生徒主体の行事や新たな取組（フードドライブ等）が実施され、生徒の主体性の育成につながった。一方で、行事を持続可能なものとするため、円滑な運営を行う工夫が必要である。	引き続き、生徒が主体的に企画・運営できる行事の環境整備を行うとともに、文化祭においてはキャッシュレス決済を導入し、利点や課題について組織的な検証を行う。 サポートドックも引き続き活用し、生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。
3	進路指導・支援	生涯にわたって、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考えさせ、自己実現できるようにキャリア教育を充実させ、進路指導・支援を行う。	①社会・世界とのつながりを考えながら生徒が将来を見据えた進路選択ができるようキャリア教育を充実させる。	①生徒が自立的に進路選択ができるようガイダンスの充実を図るとともに ICT 等を活用した個別最適化学習の充実を図る。	①将来を見据えた進路選択ができたか。また、その進路選択を決定する際にさまざまな学習機会を活用できたか。	①インターンシップを拡充した。生徒に 140 社を案内し、28 名が利用した。また、個別最適化学習の一助としてスタディサプリを全学年で活用した。	①多様な進路選択や個別最適化学習ができるよう担任や教科担当と連携してキャリア教育を充実させていく必要がある。	行ける学校でなく、行きたい（勉強したいことができる）学校を選択し受験することが必要である。	インターンシップの拡充や英検の全生徒の受験、ICT 教材の導入など生徒への進路支援は充実してきた。 それらを活用して生徒がより自主的に進路について考える機会を増やすことが必要である。	キャリアパスポートの活用を図り、生徒自身の将来を積極的に考える機会を増やしていく必要がある。
4	地域等との協働	学校運営協議会や保護者、地域の関連機関等と連携し、学校の教育活動をさらに充実させる。	①総合的な探究の時間等で、地域・外部機関・地元の企業等と連携し、生徒の視野を広げる。	①講演会等を通じ、生徒が直に学校外の関連機関とつながることにより、自分事として課題解決ができるようにする。	①探究学習を通じて、生徒が自ら課題を見つけ、主体的に関わりようとしているか。	①総合的な探究の時間では、日産自動車から講師をお呼びして、課題解決の手法についての出張授業をしていた。	①引き続き、地元の企業や外部機関等との連携を模索し、生徒の視野拡大に向けて取り組む。	様々な取組ができている。生徒の活動としてできることを、継続して続けると良い。	地域の企業や校内の資源を利用した取組ができたが、さらに地域の資源活用を広げた取り組みに行きたい。	コンソーシアムサポータの活用や地域資源の拡充を検討する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに、生徒が安心して学習や様々な活動に取り組めるように、安全な環境を整備・維持する。	①風通しの良い職場環境を維持し、全職員で意識を持ち、事故・不祥事を防止する。	①不祥事防止研修などを通して、職員全員が自分事として考えられるよう、研修内容を工夫する。	①職員間の連携が図られ、事故・不祥事を防止できたか。	①職員間の連携が図られ、意識も高まり、自己・不祥事は1件もなく、防止できた。	①今後も、生徒が安心して安全な学校生活が遅れるよう、職員一丸となり、不祥事を防止する。	不祥事防止研修の取組は興味深い。ぜひ継続してほしい。	職員間の連携が図られ、自己・不祥事を防ぐことができた。	職員一人ひとりが自分のこととして考えられるよう、研修の工夫を継続する。